令和３年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立津幡高等学校

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
１　基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	①　挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が Ａ　９５％以上である。 Ｂ　９０％以上である。 Ｃ　８５％以上である。 Ｄ　８５％未満である。	Ｂ １２月の教育活動に関するアンケート （保護者）９２％	中間評価は９０％であったが、９２％とやや向上した。コロナ禍であるため「大きな声で挨拶する」ことは憚られる状況ではあるが、挨拶自体は、コミュニケーション力につながるものであり、今後さらに習慣化させていきたい。
	②　服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が Ａ　９５％以上である。 Ｂ　８５％以上である。 Ｃ　７５％以上である。 Ｄ　７５％未満である。	Ａ １２月の教育活動に関するアンケート （生徒）９６％	前期と同じ９６％であった。感染対策で換気が必要なため教室の適正温度が維持しにくいため、服装で対応する必要があった。生活指導と感染対策を両立させるため、随時、新たな着用規定を工夫していきたい。
	③　規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数が過去５年間の平均値と比べて、変化率が Ａ　１５％以上の減少である。 Ｂ　１５％未満～５％以上の減少である。 Ｃ　５％未満の減少～５％未満の増加である。 Ｄ　５％以上の増加である。	Ｄ １２月集計で過去５年間平均値より２５％（１４６件）の増加	長欠傾向の生徒の増加とコロナ禍の影響で２５％の増加となった。しかし、昨年度と比較して１２月末時点で２９件の減少となっている。昨年のデータと比較するとやや遅刻増加に歯止めがかかってきている。
	④　清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員による清掃点検（クリーンウィーク）で平均清掃達成率が Ａ　９５％以上である。 Ｂ　９０％以上である。 Ｃ　８５％以上である。 Ｄ　８５％未満である。	Ａ １２月の環境美化委員の評価では ９９．８％	教室の清掃点検の結果については、良好な達成率であり、適切な環境整備が行われているようである。ただ特別教室や階段・トイレ等については時折清掃が行き届かない場面も見受けられる。これらの改善のためにも、根気よく学校美化の意義について指導・助言を徹底していきたい。
	⑤　生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が Ａ　９０％である。 Ｂ　８０％以上である。 Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ １２月の教育活動に関するアンケート （生徒）８３％	学校生活や友達関係に不安を抱えている生徒に対し、保健環境課や生徒指導課等と連携しスクールカウンセラーや相談担当教員が根気よく面談を行い、不安を解消できるよう支援を続けて来た。今後は外部機関等との連携も図り、生徒への支援を一層充実させる。
学校関係者評価委員会の評価		・挨拶を返してくれる生徒は多いが、以前から見ると元気がなくなっているように感じる。原因分析する必要があるのではないか。 ・遅刻の増加に歯止めがかかったのはよいことだが、欠席が増えたのでは意味がない。アフターコロナも見据えて再指導してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・スポーツ健康科学科の生徒の規律・礼節が、総合学科の生徒にも影響する。原点に戻り生徒の再指導を徹底したい。 ・２年間続いたコロナ禍の影響を脱して本来の姿に戻すため、生活指導面を重視・強化し立て直していく。		

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
２　授業の工夫・改善と生徒の進路の実現。（わかる授業の実践及び評価、公開授業への参加、体力の増進、生徒の進路意識の向上）	①　教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ａ １２月の生徒による授業評価では ９５％	生徒の実態に応じて授業内容や難易度を調整した点や、ＩＣＴ機器の積極的な活用が、この高評価につながったと考える。またＩＣＴ機器活用に対しては、興味・関心が高まったとする生徒の回答が６４％もあり、授業改善への効果が確認できた。今後は、蓄積されたＩＣＴ活用の事例や方法について広く教員間で共有・サポートする体制づくりに努める。
	②　教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に１回以上授業見学を行った教員の割合が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ １２月の教育活動に関するアンケート （教職員）８９％	互見授業期間に大会や代休が重なり十分な取り組みができない状況があった。実施期間以外でもＩＣＴを活用した授業で多数の見学実績があり、授業力向上に努める姿勢が見られた。 次年度より Chromebook が生徒全員に配布される状況を踏まえ、後発の教員向けの活用事例研修会等も企画していきたい。
	③　生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が Ａ　８０％以上である。 Ｂ　７０％以上である。 Ｃ　６０％以上である。 Ｄ　６０％未満である。	Ａ ６月のスポーツテストの結果では ８６％	昨年度と比較し、評価結果が８６％からかなり低下した。コロナ禍で運動の機会が減ったことが原因と考えられる。運動部への加入が少ない総合学科の女子の体力低下が目立ち、特に今回３年生の数値が低かった。 今後、体育の授業を中心に、体力アップに努めていく。
	④　一人一人の生徒に対してしっかりとした進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が Ａ　１００％である。 Ｂ　９５％以上である。 Ｃ　９０％以上である。 Ｄ　９０％未満である。	Ｂ 就職内定 ９５．４％ 進学内定 ９６．９％ 全　体 ９６．３％	コロナ禍ではあったが、進路指導活動は例年通りの取組みが実施でき、内定率も昨年並みの結果を残すことができた。課題としては、就職希望先決定期が若干早いことによる弊害と、進学希望者への支援体制が十分に機能していない点があげられる。 次年度は、以上の点を修正・強化し、指導体制の再構築をすすめていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・既成概念や経験知より新規の思考や創造を一段上に見る時世であるが、どちらも大事であり、集団やケースによっては前者を重視せねばならないことも間々ある。社会では知識・技能は土台であり基本である。 ・次年度より端末が一人一台配付されるらしいが、ＩＣＴ活用により、学習意欲や関心が高まるという生徒のアンケート結果をもっと学校サイドは素直に重要視してもらいたい。スムーズな導入のため今年度から準備してほしい。 ・社会や世代が変わっても実社会でやっていけるのは、やる気・熱意・意欲など、物事に主体的に取組む人物である。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・資質・能力の３つの柱のバランスを適切にとるために、基礎力診断テスト等の結果を分析し、本校に応じた調整を行っていく。また上位者の指導法についても、先進校の事例を参考に本校のスタイルを確立していきたい。		

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
３　部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、ボランティア活動の推進、情報発信）	①　県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した部活動が Ａ　８部以上である。 Ｂ　６部以上である。 Ｃ　５部である。 Ｄ　５部未満である。	Ｂ 全国高校総体（男女柔道、なぎなた、ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ、ボート、射撃部）、ウインターカップ（女子バスケット）計７部	新型コロナの影響で昨年度は、多くの全国大会が中止となったが、今年度は大会が開催され、本校より７部が全国大会に出場できた。特に柔道部女子は個人３位に入賞し、各部の励みともなった。各部活動ともコロナ禍の中で、限られた時間を工夫して効率よく取り組んだ成果がでた。今後はさらに感染症対策を徹底し、質の高い部活動運営を実現させる。
	②　部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効率的・効果的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が Ａ　９０％以上である。 Ｂ　８０％以上である。 Ｃ　７０％以上である。 Ｄ　７０％未満である。	Ｂ 12 月の教育活動に関するアンケート （生徒）８１％	年度途中にコロナの影響で、臨時休業や活動の制限が度々あった。練習計画の見直しや再調整を適切に実施した結果、大きなダメージは回避できたと考える。 何より大会が開催されたことが、生徒のモチベーションや達成感に寄与していることが確認できた。
	③　生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が Ａ　７５％以上である。 Ｂ　６５％以上である。 Ｃ　５５％以上である。 Ｄ　５５％未満である。	Ｂ １２月の教育活動に関するアンケート （生徒）７５％	新型コロナの影響で、学校行事が中止になったものがあり、不完全燃焼だった部分がある。しかし、文化祭・体育祭の企画・運営に見られたように、生徒が主体となった生徒会活動という目標は、昨年以上に具現化できた。今後も自立した活動のために生徒を育成・指導していく。
	④　様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が Ａ　６０％以上である。 Ｂ　５０％以上である。 Ｃ　４０％以上である。 Ｄ　４０％未満である。	Ｃ １２月の教育活動に関するアンケート （生徒）４９％	コロナ禍でボランティア活動自体が中止・縮小されている影響が、今年度もあった。ボランティア活動には、学校企画の活動と、個人が自主的に行う活動があるが、後者を少しでも増やしていきたい。ボランティアの意義や大切さを理解させ、その意欲を高める啓発に挑戦していきたい。
	⑤　学校通信（校内、地域）の発行やＨＰ・学校メール配信により部活動や生徒会活動の様子などをきめ細かく発信する。	学校のＨＰや学校メールの発信に満足している保護者の割合が Ａ　８５％以上である。 Ｂ　７５％以上である。 Ｃ　６５％以上である。 Ｄ　６５％未満である。	Ａ １２月の教育活動に関するアンケート （保護者）８５％	本年度中間アンケートと比較すると１％up し辛うじてＡ判定の結果だった。情報発信回数と満足度は強く相関するので、より一層、学校活動の様子を発信する機会を増やす必要がある。また情報発信の責任の所在が、やや不明確な点も是正していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・今年度はインターハイなどの全国大会が開催され本当に良かったと思う。７つの部活動が全国大会に出場したことはもっと評価されてもいいと思う。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・情報発信については、責任の所在をはっきりとさせたうえで、中学生のみならず、地域全体から関心や興味を引き出すものに変えていきたい。次年度は学校としてアクセス数に着目し続ける。		

重　点　目　標	具　体　的　取　組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
４　教職員の時間外勤務の削減による教育活動の充実。（効率的な業務の推進）	①　教職員のワークライフバランスの実現に向けて、校務の効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。	月８０時間以上の時間外勤務のある職員の延べ人数が Ａ　０人である。 Ｂ（月数×１人）以下である。 Ｃ（月数×２人）以下である。 Ｄ　Ｃを上回る。	Ｄ １２月までの９ケ月で時間外勤務８０時間を超える延べ人数が２６人	Ｒ２年度の集計値は２４人であった。Ｒ３年度は、２６人と増加したが、コロナ禍以前の集計値からは減少しおり、校務の効率化が学校全体として定着していることが確認できた。部活動における県外大会への参加等で８０時間を超える勤務は、止むを得ない部分があり、社会体育への移行等の検討が待たれる。
		（全教員）タイムマネジメントや業務の効率的な推進を意識した働き方をしていると答えた教職員の割合が Ａ　８０％以上である。 Ｂ　７０％以上である。 Ｃ　６０％以上である。 Ｄ　６０％未満である。	Ａ １２月の教育活動に関するアンケート（教職員）８８％	中間評価報告と同様に、働き方改革は職員にかなり浸透している。多くの職員が仕事の効率化を意識していることが数値からうかがえる。 しかし一部の職員、運動部顧問においては、大会等への参加、強化育成が最優先となっており、スタイルを変更しがたい状況も中間報告同様、依然として見受けられる。 今後、教職が理念や理想だけでなく、働く環境としても魅力あるものに整備し、次世代につなげる意識の醸成に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価		・働き方改革をすすめていくことは大事なことである。また教職という仕事の労働環境を整えることも重要なことである。現実の部活動や学習活動の成果を上げるうえで時間が必要なこともまた事実である。だとすると達成度判断基準の設定にもっと工夫が必要ではないか。全国大会参加に要した時間や補習指導に要した時間など、止むを得ないものとそうでないものを峻別する指標や基準を工夫し、適正化した方が、職員の方々も納得感を感じるのではないでしょうか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・不必要な時間外勤務を削減するための、達成度判断基準の設定を工夫していき、効果的・効率的な時間削減に寄与するものとする。 ・効率的な部活動運営により、生徒の家庭学習時間増加につなげていきたい。		